

1. 調査の目的と概要

1) 調査の目的

山武市の中心的な駅に成東駅がある。成東駅は、山武市役所の最寄り駅であり、山武市の顔となるべき駅である。これまで日本の多くの駅前には、画一的に整備されてきた。これからの駅前整備では、地域の文脈に沿った整備を展開することによって、利用者の需要を満たす駅前機能を保持しつつも、地域固有の風景や景観を創出していくことが重要である。

本調査では、こうした駅前整備のための基礎的な資料の作成を目的に行う。山武市における地域固有の景観や魅力を、客観的に複数の方法で抽出していくことによって、「山武らしさ」を見出す。これまで山武市では、生活に関するアンケート調査、宝探しワークショップなど、山武市民を対象とした様々な試みが行われている。本調査では、山武市に在住していない市民の視点で得られた景観や魅力を明らかにすることによって「山武らしさ」を見出す。

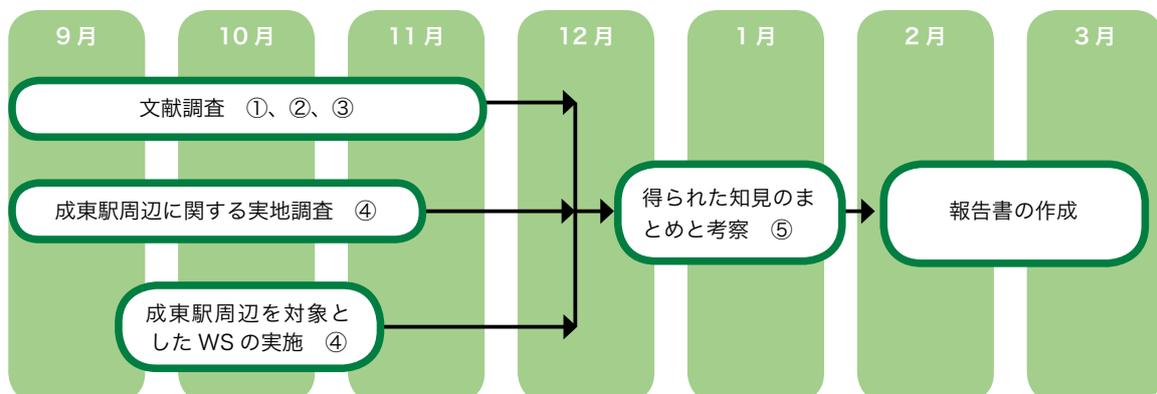
2) 調査の概要

調査の概要を以下にまとめる。

- ① 文献調査による山武市の地理的、歴史的特性の把握。
- ② 山武市景観資源調査報告書（2007年）に基づく景観的再考察。
- ③ 千葉大学の学生による「山武まちづくり提案」の分析。
- ④ 成東駅周辺を対象地とした、山武市以外の住民による魅力発見のためのWSの実施。
- ⑤ ①～④から得られた知見のまとめ。

3) 調査の日程

調査期間は、9月14日から3月15日までとし、文献調査、成東駅周辺に関する実地調査、成東駅周辺を対象としたワークショップの実施を9月から11月にかけて行い、得られた知見を12月から翌年3月にかけてまとめる。



4) 調査結果のまとめ方

本節では、本報告書における調査結果のまとめ方及び報告書の概念を述べる。

各調査内容に対応する章を下記にまとめる。

① 文献調査による山武市の地理的、歴史的特性の把握。	→地理的把握：第2章 →歴史的把握：第4章
② 山武市景観資源調査報告書（2007年）に基づく景観的再考察。	→第2章
③ 山武まちづくり提案より山武市の保全すべき魅力の抽出。	→第3章
④ 成東駅周辺を対象地とし、山武市以外の住民による魅力発見のためのWSの実施。	→第5章

各章間の関係は下図の通りである。

- (1) 第1章では、調査の目的と概要、及び調査日程について述べる。
- (2) 第2章では、① 文献調査による山武市の地理的把握、② 山武市景観資源調査報告書（2007年）に基づく景観的再考察、で得られた知見をまとめる。第3章では、③ 山武まちづくり提案より山武市の保全すべき魅力の抽出、で得られた知見をまとめる。これらは、山武市全体に着眼点を置いて考察する。
- (3) 第4章では、① 文献調査による山武市の歴史的特性の把握、で得られた知見をまとめる。第5章では、④ 成東駅周辺を対象地とし、山武市以外の住民による魅力発見のためのWSの実施、で得られた知見をまとめる。これらは、成東駅周辺地域に着眼点を置いて考察する。
- (4) 山武市全体に着眼点を置いた考察、成東駅周辺地域に着眼点を置いた考察、双方から得られた知見を第6章で総括し、本報告書をまとめる。

